

平成28年度自己評価

－今年度の重点目標について－

評価の基準：A－大変良くできた B－よくできた C－やや不十分 D－不十分

1 白楊三訓を指針とし、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、校外活動への積極的な参加を奨励することで、社会生活に必要なマナーや社会性を育む

【評価B】

- ・身だしなみを整え、挨拶を励行し、時間を守らせる 【評価B】
「挨拶励行」・「時間厳守」・「整理整頓」（白楊三訓）の実践について、生徒への継続的な浸透が図られた。概ね守られているが、一部に継続的な指導を要する生徒が見られる。今後も組織的に、一人ひとりに対するきめ細やかな指導を継続する。
- ・地域連携活動の推進・・・社会性を育みコミュニケーション能力を高める 【評価A】
専門科目や課題研究をはじめとする各学科の特色ある教育活動の他、各種教育機関等の催事、校外のコンクール等を、地域交流活動や校外学習の機会として活用するために生徒へ情報提供するとともに活動への参加を促し、生徒の社会性の育成に効果を上げた。

2 学習意欲を高めるため、魅力ある授業を実践し、確かな学力の定着を図る。

【評価B】

- ・わかる授業の実践・・・アクティブラーニングによる主体的・体験的な授業、授業研究による授業力の向上 【評価B】
本年度、NIE 実践指定校としての取り組みが始まり、専門科目における従来からのアクティブラーニングに広がりが見られ、普通教科を含め、より主体的に学習する態度が養われた。一方、授業公開週間に他校からの参観もあったものの校内での参観数は伸びず、授業研究に課題を残した。
- ・資格取得率の向上・・・資格取得の積極的な奨励と指導の充実 【評価B】
全学科において資格取得の意義を生徒が理解し、意欲的な取り組みが見られるものの、一部の資格取得において事前指導不足により合格率が上がらなかった。
- ・学習習慣の確立・・・家庭学習、自主学習を習慣化するための課題の提示 【評価C】
確かな学力の定着を図るため、家庭学習の習慣化を意識しながら教科指導を行ってきたが期待通りの変容はなかった。課題等の外部要因による学習の習慣化よりも、勉強の必要性を生徒が自ら理解するような日頃からの指導がより大切である。
- ・読書の奨励・・・課題図書等による読書習慣の確立 【評価C】
高校生一般の読書離れが問題となる中、今年度も朝の読書を通じた読書指導に継続的に取り組んだ。また、読書の楽しみや良さを実感させたり、本に対する興味関心を高めたりしようと、読書会などの指導機会を創出した。
学科の専門性に関連する図書への関心は大きくは改善されなかったため、読書によって視野を拡大する重要性について、日常的に生徒に伝える姿勢が大切である。

3 自己実現を図るために個性の伸長を図り、自主性や主体性を高める。

【評価B】

- ・部活動の活性化・・・部活動加入率の向上、競技力や表現力の向上 【評価B】
8割を超える生徒が部活動に加入し積極的に取り組んでいるが、顕著な大会結果を残すことができた部活動が少なかったことは残念である。自己実現につながる成長を保証するためにも、部活動を通して人間性を錬磨すること、主体的に活動しようとする意識を育てることに主眼を置いた指導を取り入れることが大切である。
- ・キャリア教育の充実・・・低学年からの継続的・発展的なキャリア教育の実践 【評価C】
3年生に向けたきめ細やかな進路指導がなされ、進路希望を実現することができた。一方、生徒の秘めている可能性を十分に引き出すためには、1・2年次におけるキャリア教育を通じた自己理解の深化が必要であり、計画的な指導及び家庭との連携が必要である。